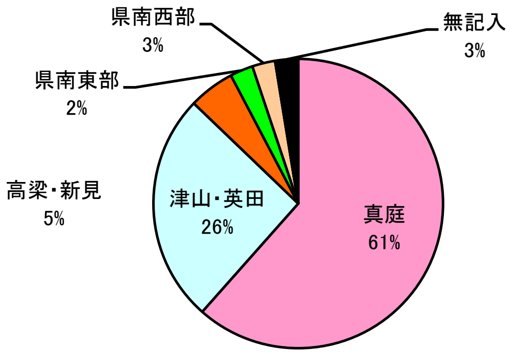
アンケート集計結果　回答者 78名／出席者106名

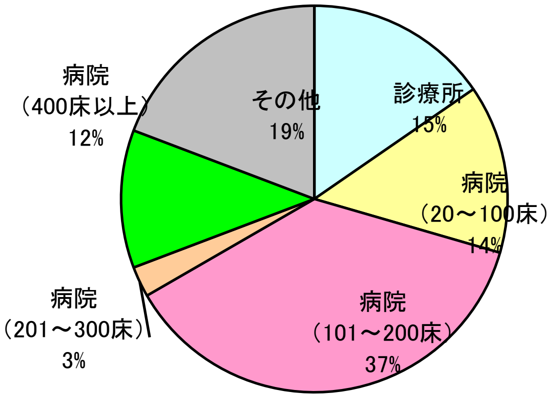
◆所属施設の2次医療圏

施設名	人数
真庭	48
津山・英田	20
高梁・新見	4
県南東部	2
県南西部	2
県外	0
無記入	2
合計	78



◆所属施設の病床数

病床数	人数
診療所	12
病院（20～100床）	11
病院（101～200床）	29
病院（201～300床）	2
病院（301～400床）	0
病院（400床以上）	9
その他	15
無記入	0
合計	78

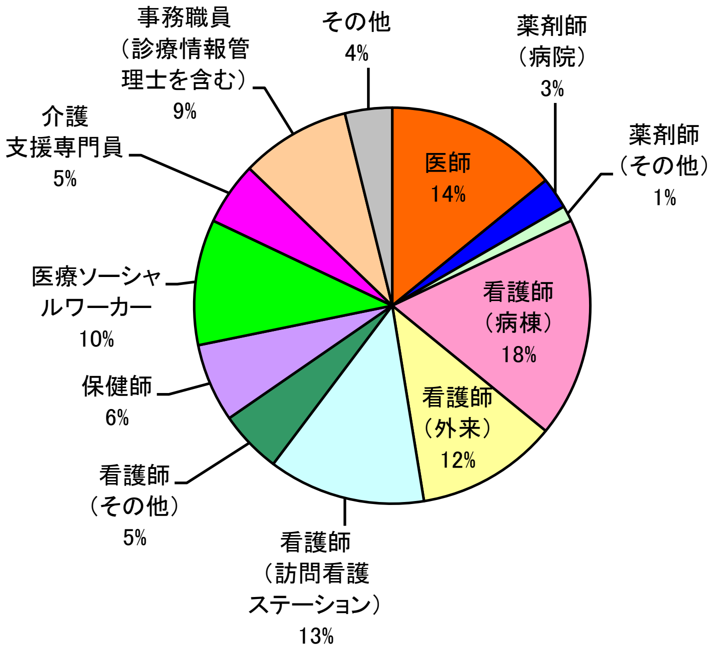


その他の内訳

居宅介護施設	1
保健所	2
個人	1
訪問看護ステーション	6
行政	2
不明	3

◆参加者の職種

職種	人数
医師	11
歯科医師	0
薬剤師（病院）	2
薬剤師（調剤薬局）	0
薬剤師（その他）	1
看護師（病棟）	14
看護師（外来）	9
看護師（訪問看護ステーション）	10
看護師（その他）	4
保健師	5
医療ソーシャルワーカー	8
医療相談員	0
介護支援専門員	4
事務職員（診療情報管理士を含む）	7
その他	3
無記入	0
合計	78



その他の内訳

管理栄養士	1
ケアマネージャー	1
不明	1

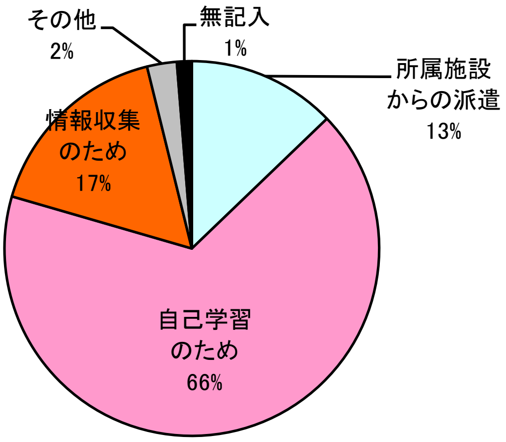
アンケート集計結果　　回答者 78名／出席者106名

◆研修参加理由

理由	人数
所属施設からの派遣	10
自己学習のため	52
情報収集のため	13
その他	2
無記入	1
合計	78

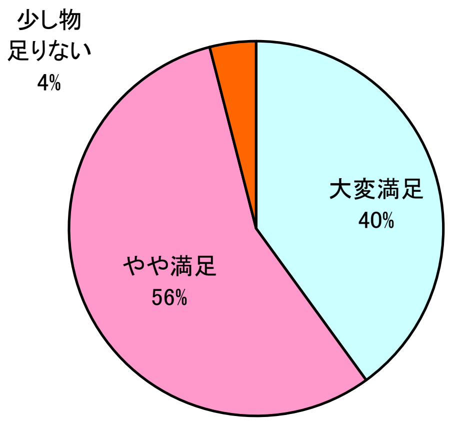
その他の内訳

義理	1
不明	1



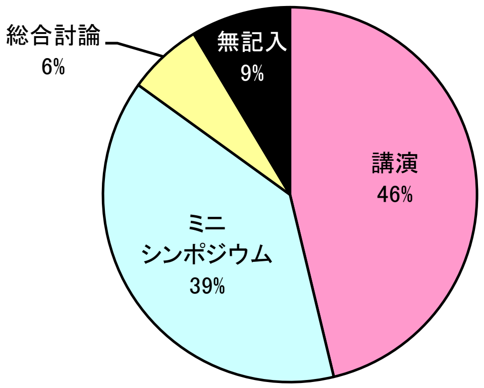
◆研修会の感想

感想	人数
大変満足	30
やや満足	42
少し物足りない	3
物足りない	0
無記入	3
合計	78



◆本研修会で良かった項目（複数回答可）

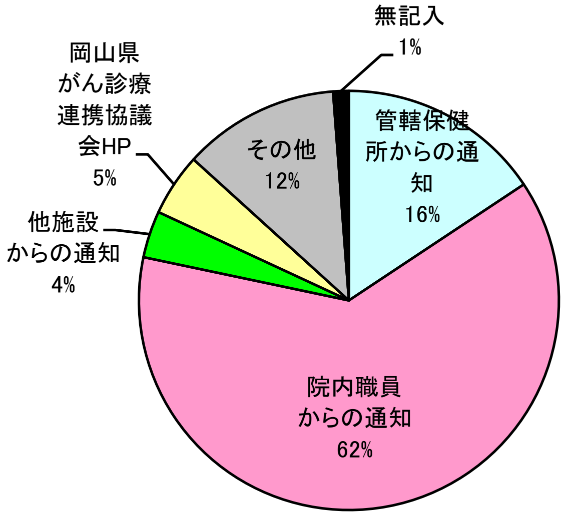
項目	人数
講演	43
ミニシンポジウム	36
総合討論	6
無記入	8
合計	93



アンケート集計結果　回答者 78名／出席者106名

◆本研修の開催情報の取得方法について（複数回答可）

取得方法	人数
管轄保健所からの通知	13
院内職員からの通知	52
他施設からの通知	3
岡山県がん診療連携協議会HP	4
その他	10
無記入	1
合計	83

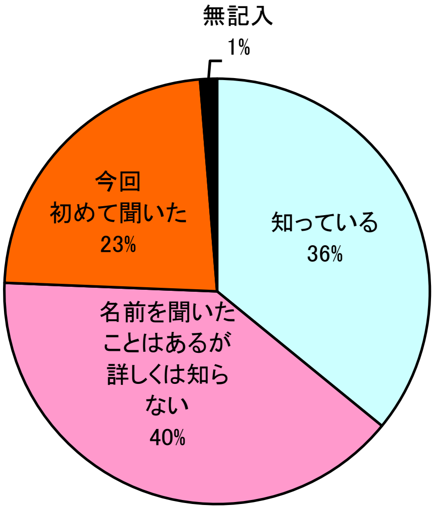


その他の内訳

拠点病院のポスター	1
地域医療部会	1
FAXにて	3
医師会	3
送付文書	1
不明	1

◆岡山県がん診療連携協議会を知っているか

どれくらい知っているか	人数
知っている	28
名前を聞いたことはあるが詳しくは知らな	31
今回初めて聞いた	18
無記入	1
合計	78



アンケート集計結果　回答者 78名／出席者106名

◆今後取り上げてほしいテーマ

・緩和ケアの際の医学的アセスメントと最新の治療について。
・口腔ケアと食べる事へのフォロー。
・ファミリーサポートを含め、メンタルフォローに関する講演。患者さんの主治医、かかりつけ医への思い、心のつながりへの思いのフォロー。
・実効性のある診療連携の実例。
・検診について。
・医療資源のないところでのがん治療について。
・岡山県北のがん治療の均てん化に必要な取りは何かについて。各施設、スタッフに何ができるかについて。
・ターミナル・ケアについて。
・がんの末期の方、化学療法される方のほとんどに食欲低下がみられます。どんなものが食べやすいのか、おすすめの食事や製品など、教えてもらいたいです。ご家族の方は、何か食べてもらいたいという気持ちがとても強いように思います。
・連携パス活用事例について。
・連携の仕方について。（同意見　他１件）
・化学療法の患者の支援等。
・家で看取るということを推進するために必要な連携とは。
・専門的ながんの対応について。
・家族に対しての対応について。

◆がん地域連携、がん診療拠点病院・推進病院についてのご意見

・今後もコメディカルが受講可能な勉強会を実施していただきたい。ありがとうございました。
・本日の講演の事例を示しての具体的症例がよかったです。
・地域性もあるのかもしれませんが、やや本質から外れた発想を一部の演者に感じました。各論になりますが、地域枠の研修医に麻薬を扱える医師の養成を。
・がん看護部会でがん看護の質の向上を図るために、どのような取り組みが必要かという議題があがっている。それについての情報収集になりました。ありがとうございました。
・地域格差のない医療が受けられる環境整備を望みます。
・それぞれの立場、役割がわかり、HPスタッフとして今後に役立たせていけると思いました。ありがとうございました。今後も県北で定期的に開催してほしい。
・とても勉強になりました。是非今後も研修会等、参加していきたいです。
・地域連携がしっかりできて在宅療養を希望する人々が、早い段階で在宅生活を送れるようになってほしい。
・訪問看護師の方の実際のご苦労を感じました。
・研修会開催等によりもっとPRしてほしい。
・総合討論の時間が少なかった。
・急性期の病棟の看護師はなかなか在宅生活をみることができにくいのが現状です。在宅支援をする立場になって初めて生活をみるということが少しずつできるようになったと思います。病棟の看護師が入院中に在宅が見えるようになる力をつけていくことが課題だと思います。病棟看護師が「家には帰れないだろう」と思っていても、帰れる場合もあります。病棟だけで考えるのではなく、ケアマネや保健師などいろんな人の意見を聞いてほしいと思います。
・患者、家族の声を大切にしてほしい。
・今後も連携の機会が多くあればよいと思います。
・真庭での研修会を増やしてほしい。
・拠点病院からの紹介を受けるときに、今後の過ごし方について等の情報が少ない。長く入院できると聞いたから、とか言われることも多く、連携を取っていくためにはそれぞれの機関が何ができて何ができないのか、お互いをよく知っていけるようにならないといけないと感じています。
・拠点病院との連携につながる研修会であったと思います。
・それぞれの専門職の立場からの意見、患者さんに寄り添う姿勢、とても貴重な意見を聞けました。